

## 運営委員会だより

秋の夜長に響き渡る‘虫の音’。なんと外国人には聴こえないと言うのです。(南太平洋のポリネシア地域の先住民の言葉は除く。日本語同様母音を主体に出来ているため。他にもあるかもしれませんが。)これはムシできませんねー。この不思議な現象を発見したのは、角田忠信という医学博士です。博士によると、この現象には「母音」が深く関係しているとのこと。つまり、日本語は「ン」以外、a i u e o ka ki ku ke ko のように、あいうえおの母音が必ず付いています。このように、日本語は母音主体なので、日本人は母音を頼りに聴き分けているのです。

母音は声帯振動だけで出す自然体の音なので、自然の音に近いのです。母音と自然界の音は、素直な低めの音で周波数も同じ低い領域にあります。自然物から単純な振動だけで出される虫の声も、母音とかなり似た音の波形をしています。この低い領域に感度を合わせて聴き分けるため、日本人は母音の音に非常に敏感なのです。それに対し、日本語以外の言葉は、ほとんどが高い周波数の子音が主体なので、外国人はこれを

## 運営委員 平井 敏久

頼りに言葉を聴き分け、子音だけが左脳(言語脳)に入ってきます。

次は脳との関係ですが、日本人の場合、母音によく似た自然界の音は全て、言葉理解の役割を担う左脳(言語脳)に取り込まれていきます。一方外国人にとって、母音や自然界の音は、音の波形や周波数が違うので、言葉を理解する左脳には入らず、雑音や音楽の処理を司る右脳へ入ってしまうのです。

日本人は虫の声を、「言葉と同じ扱い」をし、左脳で認識するため、感度よく捉えることができるのです。一方外国人は、虫の声を言葉とは捉えずに「雑音扱い」して右脳の方で処理しています。従って左脳に入らず、聴こえないのです。日本独特の文化も、母音と左脳のなせる業のようです。興味のある方には、角田忠信著「日本人の脳」「続日本人の脳」(大修館)、沢木真也著「日本人しか持たない能力」(文芸社)がお勧めです。

特に沢木氏の本は、日本人と外国人の比較、韓国と日本の比較、日本人のルーツ、日本の道筋など、広範囲にわたって日本人の謎解きが展開されています。秋だけにストンと fall するかも・・・。

## 今後の主な予定

- |                        |                     |
|------------------------|---------------------|
| 10月20日(土) 11時～         | 3色パステルアート寺子屋(フォーラム) |
| 11月02日(金) 13時～         | スタジオ楽書会(フォーラム)      |
| 11月16日(金) 13時～         | スタジオ楽書会(フォーラム)      |
| 11月30日(金) 14時30分～      | 原発と自然エネルギー部会(フォーラム) |
| 11月10日(土) 11時～ 13時30分～ | 3色パステルアート寺子屋(フォーラム) |
| 11月24日(土) 14時～17時      | 近現代史ゼミ(前橋市総合福祉会館)   |

育ちと学び No. 38

ぐんま教育文化フォーラム

2018年10月19日 発行

〒371-0026 前橋市大手町3-1-10 群馬県教育会館3F

[TEL・FAX] 027-235-8876 [IP電話] 050-3419-3803

[E-mail] g-kyoken@nifty.com

[URL] <http://gkb-forum.sakura.ne.jp>

